

0 この授業をはじめたきっかけ

●10 年前の問題意識：音楽に未来はあるのか？

●ポピュラー音楽の変遷とミュージカル

1920 年代:	ヨーロッパ系ポピュラー音楽	初期ミュージカル
1920～30 年代	ジャズ	(1930 年代ガーシュイン作品など)
1930～40 年代	ラテン(ルンバ、マンボ)	1957 ウェストサイド物語
1950～70 年代	ロック	1967 ヘアー、1971 ジーザス・クライスト・スーパースター (2000 年代はジュークボックス・ミュージカル→後ろ向き)
1980～	ヒップホップ(ラップ)	2016 ハミルトン
2000～	EDM	

*しかしその後、この変革は受け継がれていない

●2016 年のトニー賞：《ハミルトン》(★)

10 ドル紙幣にも描かれているアメリカ建国の父の一人アレクサンダー・ハミルトンを主人公とした歴史ミュージカル。脚本、作詞、作曲、(主演)はリン・マニユエル・ミランダ。2015 年 2 月にオフ・ブロードウェイ、8 月にブロードウェイ進出、社会現象を巻き起こした。2016 年のトニー賞では 16 部門にノミネートされ、作品賞を含む 11 部門で受賞。ヒップ・ホップ(ラップ)を全面的に使用したことで注目されている。

1 ルーツ：オペレッタとヴォードヴィル・ショー

●ミュージカルとは

(ミュージカル-コメディの略) アメリカで発達した大衆舞台芸術の一分野。オペレッタの流れを汲み、アメリカ独特のショー形式やポピュラー-ソングの要素を加えた総合的性格をもつ音楽舞踊劇。(広辞苑)
第一次大戦後アメリカで独自の発達をとげた、音楽・舞踊・演劇を巧みに融合させた総合舞台芸術。イギリスのコミック・オペラから発生し、アメリカ的な機知や好みをもつ音楽劇として発達した。ミュージカル-コメディ。(大辞林)

●ミュージカルのルーツ

◆ヨーロッパ系

・オペレッタ

19 世紀後半からパリとウィーンで大成功。

例:	パリ:	オッフェンバック	《天国と地獄》
	ウィーン:	J.シュトラウス 2 世	《こうもり》
		レハール	《メリー・ウイドウ》(★)

・イギリスのコミック・オペラ (サヴォイ・オペラ)

19 世紀後半、ロンドンのサヴォイ劇場を中心に流行。

W.S.ギルバート(台本)と A.サリヴァン(作曲)による《軍艦ピナフォア》、《ミカド》(★)ほか

・ヨーロッパのオペレッタ作曲家がアメリカに渡った例：ロンバーグ《学生王子》(★)

◆アメリカ系(★)

・ミンストレル・ショー

19 世紀中ごろから米国で盛んになった芸能。顔を黒く塗った白人が黒人の歌をうたうのが呼び物となり、のち黒人も出演した。バージニア・ミンストレルズなどのグループが活躍。フォスターの歌曲など、ミンストレル・ショーで歌われ有名になった曲も多い。20 世紀に入ると衰えたが、ミュージカルの先行形態の一つといえる (マイペディア)

・ヴォードヴィル

フランスの軽喜劇。曲芸、寸劇、パントマイム、踊りなどをとり入れ、19 世紀中ごろ

ミュージック・ホールの演芸として流行。現在ではコミックショーなどの喜劇的寸劇を

いうことが多い。ミュージカルはボードビルを現代化し、音楽を重視したものといえる。(マイペディア)

・ジークフェルド・フォーリーズ

1907 年から 1931 年までニューヨークのブロードウェイで上演された劇場作品(レビュー)のシリーズ。フロレンツ・ジークフェルド(Florenz Siegfeld 1867-1932)がフランスの

ミュージック・ホール「フォーリー・ベルジェール」に範を倣ってプロデュース。

ヴォードヴィルやミンストレルショーなど既存の芸能を取り込み、派手な舞台装置に華麗な衣装の女性たちを配して人気を博した。

(★)は資料動画あり